

長田下地域 振興会だより 第23号

2015年(平成27年)7月22日発行

長田下地域自治振興会 平成27年度総会

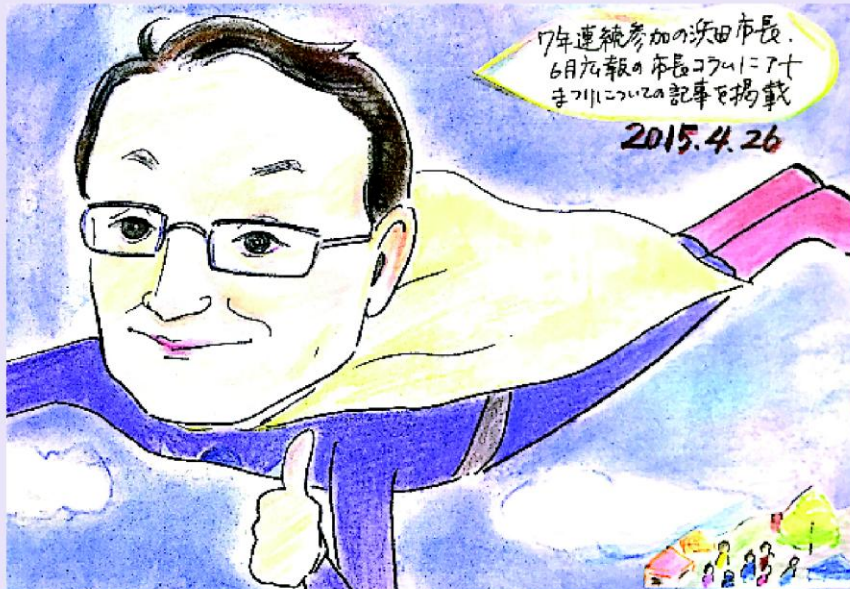
4/19 13:30~ 真徳寺

当日は、67名の参加(委任状34)により開会。市役所より、危機管理課青山課長を迎え、近年の緊急課題である「防災」についての対応策の説明を受け、改めて防災対応の必要性を感じました。総会では、平成27年度の行事や予算、役員人事について決定。また、「長田下地域自主防災会」についても審議・決定を致しました。紙面の都合上詳細は省略しますが、長時間でのさまざまな議事も参加者の協力により無事終了、参加の皆様ご苦労様でした。

※主な役員 会長：笹岡邦彦、会長補佐：沖増勝郎・迫能典・重村芳男、副会長：各地区行政嘱託員、その他の役職は省略します。この1年ご苦労をおかけしますが、よろしくお願いいたします。(T.K)



総会には多くの会員住民が集いました



アートまつりin向原

(協賛事業) 4/26

日差しが暖かくなって、かたくりまつり、花しょうぶまつり、保垣ほたる・かじか祭りなどが集う行事が町内で開催されていますが、今回の紙面ではアートまつりを取り上げたいと思います。

7年目を迎えたアートまつりは4月26日(日)に農村交流館やすらぎとふるさと河原公園で開催されました。今年はお天気に恵まれ、

昨年の3000人を大きく上回る5000人以上の来場者がありました。

音楽ライブや即興ペイント、アート関連のお店やワークショップが80店舗、フードコーナーには30店舗が並びました。

実行委員会では半年前からインターネットによる出店者募集・調整をされているそうで、市内外の常連の方はもとより、今年初めて島根から来られた自然食のお店の方もおられました。ローソンまでの範囲で巡回バスを出すなどのアクセス配慮もされています。水遊びをする子どもさんも多くみられ、家族で終日楽しめるまつりだと思いました。(担当T.K)

平成27年度 ふれあいの集い

6/20(土) 13:30～ 中長田集会所

本年度最初の「ふれあいの集い」は、振興会ふれあい部を中心に、中長田集会所で行いました。例年通り、まずは血压測定からはじまり、振興会笹岡会長よりご挨拶を頂き、中川部長より会の運営について説明がありました。そして、今回の講演は「ごみ処理をどうするか」のテーマで、「きれいセンター」の児玉局長さん（実は本地区5区在住）に講師となっただき、やや真面目な「勉強会」を行いました。ごみ処理の問題は、大きな産業経済からの視点では「静脈産業」（生産が動脈）としてこの社会経済活動を支えるものですから、大きな課題です。また、当振興会では「資源ごみ」回収で「自主財源」を確保していますので、皆さんに大いに関心を持っていただきたいことでもあります。児玉さんの分かりやすく、またユーモアあふれる講習で参加者の方の理解も深まりました。ここで「ポイント」を数例挙げておきましょう。



多くの実例品による
分かりやすい講演



熱心な参加者の勉強会

- *まずは、使えるものをゴミにしない
…使わない物は買わない。買ったならそれを大事にする。
- *分別は、「燃える」か「燃えない」かで分ける。
…処理の第一がこれである。燃えないものとの合体物は「燃えない」方に。
- *燃えるゴミは、できるだけ細かくする
…機械での処理作業が効率よくなる。大きなものでは作業がしにくい。
- *燃えないゴミはリサイクル対象物であり、分別しやすい分類法が必要である。
…「燃えないゴミ」はその後、破碎分解して分類してリサイクルする。

*ビニール系は、それ専用の分類にしておく。(分解なしでリサイクルできる)

*他の物は、基本はそのままだが、電線などは切り離し、リサイクルしやすくまとめる。
(担当T.K)

『盆踊りのお知らせ』（振興会後援行事）

8月14日（金） 19時開場 20時～盆踊り

中長田集会所にて

催し物色々・・・花火、金魚すくい、かき氷、飲食物も



【広報委員会より】

今年も昨年と同じメンバーが担当しています。

少しでも役に立つ情報がお届けできれば幸いです。

（委員：谷林文男、寺尾文尚、火上保雄、松田清、児玉尊子、金岡俊信 岩見達也）

「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える⑭

今回は、地域住民の方から「下長田の古い地名を調べてみてほしい」と、声をかけていただいたので、広報担当で調べてみることにしました。

まず、昔から、自分の父母や祖父母が言っていた地名を思い起こすことから始めました。

今号は、その中から、「日南（ひな）」「隠地（おんじ）」「淵の口（淵とも言っていた）」「引野田」「海渡」「石井出」「津久田（佃）」についてお伝えします。次号で、「鳥居原」「中須賀」「神田」「田淵」「明神迫」などを取材し、まとめてみたいと思います。



○「日南（ひな）」…県道を挟んで線路側をいう。日光が良く当たる土地という意味がある。

○「隠地（おんじ）」…陰地とも書く。日南の反対側の地域のことである。日光が当たりにくい土地という意味がある。

○「淵の口（また淵）」…「ふちのくち」または「ふち」と、昔は言っていた。益田博之さん宅前の、三篠川の水流による浸食でできた深い淀みのこと。昔は水深が2 m以上あり、戦前戦後は、子供たちの楽しい水遊び場であった。中でも、高さ10 mあまりの絶壁からの飛び込みは、圧巻であった。

祖父母は「猿猴が川底へ子供を引っ張り込むけえのう。気をつけよ」と、脅かすように言っていた。今思えば、水難防止策だったのかな。

○「引野田（ひきのだ）」…7区下松田さん宅の川辺の広い田んぼ一帯を引野とか引野田と言っていた。引野とは、他所に遅れて開墾した土地という意味があるそうだ。

○「海渡（うと）」…引野田や石井出の、川向うの一帯を「海渡」と言った。海渡とは、沼地や湿地を開拓した土地という意味があるそうだ。

松田さん宅前の橋は、海渡橋といい、昔は、小さな木橋であった。

○「石井出（いしいで）」…松藤さん宅前の一帯の土地を石井出と呼んだ。昔は、川石などで三篠川をせきとめ、井堰を作って、田に水を引き込み、米を作っていたところから名づけた地名かとも考える。

○「津久田（佃とも書く）」…ひとは共同ホーム前の、渡井さん宅周辺の広い土地を「津久田（つくだ）」と言った。佃とも書き、領主の直轄する耕地のことである。例えば、内藤氏の直営農場であったとも言えるだろう。ちなみに、藤本之則さん宅のところにある橋を津久田橋という。



こうして、昔の地名をさぐってみますと、わたしたちの先祖の生活や息使いが感じられます。地域の皆さんから、下長田の古い地名（その由来や意味もふくめて）をいろいろ教えていただきたく思っています。（担当F. T）

長田下地域人物伝⑧

今回は、長田7区上にお住いの兼村元様を紹介します。

【兼村夫妻のこと】

兼村さんと言えば、忘れられない光景があります。だいぶ以前になりますが、振興会のふれあい運動会に夫婦そろって参加されていました。すでに奥さんには認知症の傾向が見え始めていました。兼村さんは、奥さんに連れ添って競技に参加され、ほんとに慈父のごとく寄り添い奥さんを支えておられました。高齢とともに認知症は避けて通れない症状かもしれません。しかし、つい出不精になりがちですが、兼村さん夫妻の姿を見つめながら、私もこうありたいものだと感じ入ったことを思い出します。

兼村さんは、奥さんの自宅での介助が困難になり、佐々木病院への入院中も、三篠園を利用するようになって、三度の食事ごとに通い、食事を共にしておられました。

奥さんは、最後に「私の人生はこれで終わりだけど、本当にありがとう」という言葉を残されたそうです。「すごい！」の一言です。私たちもかくありたいものです。

【多趣多芸】

もう一つの顔として、兼村さんの器用さは目を見張るものがあります。「あそびの楽校」にきていただき、草笛でメロディーを吹かれた時には、参加している子どもだけでなく大人までその音色の素晴らしさに驚いたものです。聞いてみると、まさに見よう見まねで近所の年上の方が吹いていたのをまねていたら、いつの間にか吹けるようになったとのこと。草笛だけではありません。

神事に欠かせない横笛はふくだけでなく、手づくりした横笛は、農村交流館に出品され、その精度の高さはピカイチだと聞いています。

子どものころを懐かしみながら、「いまの子どもは手づくりのあたたかさを経験する機会がないのは、可哀想じゃねえ」と言われた一言を、重く受け止めます。

また、書にも通じ、兼村書体は、振興会の行事のみならず、真徳寺さんの掲示板にもたびたび登場。これもほとんど自我流です。

笑いながら「子どものころから何でも自分でせんと気がすまんとことがあって、時計も何回か分解して、母親を困らせたもんよ」と思い出話もちらり。

わずかですが、兼村さんの人格に触れる機会に恵まれ、このような人たちによって受け継がれてきた、長田下地域に住む幸せを感じることができました。(担当B. T)

